

芦安ファンクラブ通信

特定非営利活動法人ファンクラブ

事務局 南アルプス市芦安芦倉1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533

URL = <http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/>

E-mail=afc3193@nus.ne.jp

「針葉樹会」名称由来

塩沢 久仙

芦安ファンクラブ通信 第四十三号

では、恩賜林御下賜百周年事業として、夜叉神峠西口において「森林学習会」と登山道整備事業を行い、その感想をお寄せいただきました。

その中で、小泉初恵賛助会員にお寄せいただいた原稿の後半に「・・・なお、針葉樹会のみなさんとお話して、せめて名称の由来など伺えばよかった・・・」の部分に針葉樹会より、以下のような説明がありました。

一ツ橋大学山岳部初期の会員で、千九百七十七年に日本登山隊がK2登頂を試みて世界で二番目の登頂に成功した時に総指揮をとった、吉沢一郎（よしざわいちろう）千九百三年～千九百八十八年（氏の著書『山へ』の中に以下の説明がなされています。「・・・前略・・・我々山岳部の年報を『針葉樹』と呼び、OB会を「針葉樹会」としたのは、実は私であった。それはわれわれが、奥秩父の山々と、深く親しんでいた、という理由もあるが、なんとこの名にしようか、いろいろ考えているうちに、ある時、ふと早大山岳部報『リュック・サック』の中に、奥秩父の記事を発見した。筆者はA氏。その記事に出てきた針葉樹という三字に眼がとまった。さてよ、そうだ、こ

れだと思った。それから皆に相談したが、「一っちゃんに委せるよ」ということでこれに決まってしまうのである。・・・」

なお吉沢は望月達夫、深田久弥、諏訪多栄蔵らと共に日本のヒマラヤ研究の第一人者であり英国山岳会員でもありました。

千九百二十二年（大正十一年）に創部された東京商科大学（後の一橋大学）山岳部は創部以来活発な活動を展開し、千九百三十七（昭和十二年）一月二日小谷部全助、森川眞三郎のペアは、二年前の北岳バットレス第三尾根の積雪期初登攀に続き、第一尾根さらに一月五日第四尾根をも初登攀を成し遂げました。これは戦前の冬季登攀としては最高レベルのものとして高く評価されています。

それから七十一年後の二千八（平成二十）七月十七日小谷部らの後輩の針葉樹会メンバー（上原、倉知、竹中、蛭川の四氏）が芦安山岳館にお見えになり、針葉樹会が所蔵している山岳図書を南アルプス市に寄贈の申し入れがありました。寄付を受けた市では、芦安山岳館に「針葉樹文庫」として所蔵することとなり、針葉樹会のメンバーが足繁く山岳館にお見えになり、文庫の整理をしていただく中で芦安ファンクラブのメンバーと交流が生まれ、登山や山岳文化を語り交流を深めております。

このような針葉樹会は、この度ゆかり

のある南アルプスで、山岳部創部九十周年事業を展開することとなり、その手始めとして、今回の恩賜林御下賜百周年事業に協賛していただき、さらに登山道整備等の事業展開を予定しておりますので、当クラブとしても全面協力体制で臨み、南アルプス市の活性化に寄与してゆきたいと思っております。



芦安フアンクラブ研修旅行

一月二十九日

早朝、芦安観光バスで精進湖線から朝霧高原経由で沼津市街へ向かう。八時三十分横山峠登山口から出発、鎖の上り階段が続く急坂を登り九時五分徳倉山(二百五十六m)到着。山頂は草原で、北岳で出会った芦川さんご夫婦と合流。天候は曇り空でしたが寒くもなく暑くも無く快適でした。志下坂峠で人馴れした黒猫さんに出会い、志下坂峠高台まで黒猫と一緒に登る。清水さんから提供された具材でトン汁を作り早朝食。黒猫さんが皆にまわりつき、ガスバーナーに近づくなどして大事なヒゲを焼いてしまったり舌を火傷したり大変ではなかったのでは・・・。

さだなみ展望台―志下坂山到着―馬込峠―さらに展望台―ぼたもち岩―中将岩(中将さん)で、塩沢館長さん、渡辺さんから講義あり。「八百二十年前平家の中将平重衡が、合戦に敗れ鷲頭山の洞窟に隠れ住んだが見つかり自害する。それから五百年後、村人がこの岩屋に如来石像を祀ったこと」

小鷲頭山本三位中将平重衡終焉切腹の場―鷲頭山(三百九十二m)沼津アルプス最高峰、駿河湾展望が望める。石祠の後ろに咲く八重桜は黄緑色に咲き御衣黄(ギョイコウ)と言われている。大平山―多比バス停。多比バス停から芦

安観光バスで戸田へ。温泉に浸かり今日の疲れを癒しました。

～山行中の会話～

さよなら三角また来て四角、四角は豆腐、豆腐は白い、白いはウサギ、ウサギは跳ねる、跳ねるはノミ、ノミは赤い、赤いは、ほおずき、ほおずきは鳴る、鳴るはおなら、おならはくさい、くさいは……柄の抜けた肥柄杓で話が終結

宿泊先の民宿では、西伊豆で採れる豊富な海の幸と旬の地魚を使った創作料理の数々を堪能、ピンボウゲームもあり幸せ一杯腹一杯で就寝。

一月三十日

七時朝食。アジ干物他多数の料理に腹いっぱい。八時三十分民宿出発(本日も晴天)―戸田出会い岬(戸田港を眺め南アルプスの北岳、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳赤石岳、聖岳、茶臼岳も)―西伊豆スカイライン―戸田駐車場(標高八百八十八m西伊豆スカイラインの中では一番の絶景が楽しめる駐車場)目の前に広がる戸田周辺の景色を堪能―達磨山、駿河湾と富士山の大パノラマを満喫。―小達磨山―戸田峠―だるま山高原レストハウス―十三時三十分、伊豆長岡いちご狩りセンターでイチゴ狩り食べ放題でまたまた腹いっぱい。―魚ジャンボひものセンター―道の駅朝霧高原―それぞれの乗車場所下車。常に腹いっぱい旅でした。幹事の杉

山さん、花輪さん感謝、感謝。お世話になりました。

修旅行の感想研文

花岡 利幸

おしからぬ命なれどもけふまでぞ、つれなき甲斐の白根をもみつ

三位中将 平 重衡

戸田、達磨山(九百八十二メートル)、山頂からの眺望は天下一品。「平重衡談義」もよかった。皆さん博学で恐れ入りました。前日の沼津アルプスは香貫山―徳倉山―鷲頭山―大平山。私は徳倉と鷲頭を征服して大満足。皆様、お世話になりました。



芦川さんご夫婦と一緒に記念撮影

幹事 杉山 弘卓

車窓でも歩行中でも、景色が開けるとすぐに白根三山を捜す会員を見て、暖かな気持ちになりました。故郷の山は親と一緒にみたいですね。参加者のご協力で今年度も無事研修旅行が終え安堵しています。また、花輪さん急な幹事依頼の快諾、助かりました。皆様、ありがとうございました。

穂坂 二郎

沼津アルプスと聞いたとき、また定例会で資料をいただきこれは楽勝だと思いましたが、しかし、やはり計画を立ててくれた幹事さんを甘く見ていました。思いと現実のギャップは大きく足は痛いは大変でした。

多くに皆様にご迷惑をおかけしましたが楽しい二日間を過ごせました。幹事さんに色々ご面倒を見ていただき感謝しています。

奥山 かがみ

研修ということ、何かを学んでいこうとは思っていても、いつもの様に幹事まかせて行きあたりばったりでしたが、海の見える山道や樹木の種類、気のある人ととの会話、遠く輝く南アルプスの白い峰が心に残りました。

宮下 重晴

今回の研修旅行で、思いがけない人と出会えた事が印象に残りました。

五年前に間ノ岳三角点改埋の時に、百名山を達成した沼津市の芦川さんご夫婦です。私はその後白根御池小屋でも会っている記憶しています。ご夫婦で山登りをしている姿は本当に良いなと思います。沼津アルプスを私たちと一緒ににお付き合頂き良かったと思いました。芦川さん有難うございました。

二日目には達磨山へ登り、雪が積もっている道をサクサクと歩きながら、南アルプスが北から南まで全山見え富士山も絵に描いた様に見える、みんな歓声を上げていた。天候に恵まれた二日間良い思い出になりました。幹事さん、ファンクラブの皆さん有難うございました。

塩沢 裕子

三島を過ぎると香貫山から連なる沼津アルプスが緑濃く私たちを迎えてくれた。

最初の山頂徳倉山で、当クラブが北岳に続いて行なった「間ノ岳三角点標柱改埋」の終了と同時に間ノ岳で日本百名山を達成された沼津の芦川さんご夫婦が「是非皆さんにお会いしたい」と合流され、一緒にめぐった沼津アルプスはとても楽しい山旅になりました。芦川さんとは偶然のご縁で、昨年暮れに雨ヶ岳の頂上で、間ノ岳以来の感激の再会で今回の話になりました。

沼津アルプスや伊豆の山頂から見た白い南アルプスは、いにしえの人々と同じ感動を与えてくれます。また山々から流れ出る水が作る駿河湾の豊かな海が、いつまでも美しくあってほしいと願います。

幹事さん、いつもありがとうございます

清水 毅

今年も研修旅行に参加した。ネット地図にて下見をすれば、市街地の中の小さなコブ程の塊に見える。「うくしゅー」といざ出発。

ところがとんだ食わせ物の「沼津アルプス」。急登急降の連続に、老化現象？

と日頃の鍛錬不足が当たり、メルトダウン一歩前で無事下山。いつもながら楽をさせてはもらえない。「戸田な洒落」や「下ネタねぎ」に混じって、源平の歴史講話も飛び出して、さすが、芦安ファンクラブ！

清水 准一

まずこのコースへ導いてくれた杉山幹事夫婦に感謝したい。

沼津アルプスは歴史と展望に恵まれ、地域の人々に大切にされているいい里山だ。しかし、その最高峰の鷲頭山と聞くとあまりいい思い出はない。若い頃、バランスが悪いと先輩に罵声を浴びせられ、大型トラックのタイヤを引き上げさせられ、それを落とされてビレー（確保）を会得させられた、ほろ苦い岩トシ場が鷲頭山の南面にある。今は無き「沼津山の会」のホームグレンデだった。みじかいが硬い岩質の多様性に富んだルートがいくつもあった。ノスタルジーに耽りながら連山を降りたところに美味しいみかんを売っていた。その御宅で甲斐犬を大切に誇らしげに観せていたのにはうれしかった。戸田の料理も美味しかったが、急なオーダーにも嫌な顔をせず、美味しい「トン汁」を準備してくれた花輪シェフにも感謝したい。四十三年ぶりの達磨山は白いじゅうたんのの中を歩き、沼津アルプス他遠近の山座同定が楽しめた。いつもながら、気心知れた楽しいメンバーとの旅は心地よく、早くも次回が楽しみになっている。

石川 剛

海の見えない所に暮らす私には幾つに成っても海を見るのは憧れる。それも

山の稜線で豚汁を食べながら、これはもう至福の時でした。

山上で豚汁食べた猫も来た

山を下って来て、道端で求め頼張ったみかんの甘さ、伊豆の山だなど思ったのです。運動とお酒の後には最高。ひと風呂浴びて宿に着き寛いだ後の夕食は、豪華というより驚き！海の幸を十分堪能しました。

早朝の港、網を引く漁師、湾の向こうに我らが白き山々、カモメの声を聞きながらの散歩。朝食も料理自慢の親父の言う通り満足満腹。バスは達磨山稜線のトレイルへ。程好く雪化粧した伊豆の山、風も無く背中から陽を浴びて何とも楽しいハイキングでした。良き友、良き風景、そして料理の美味しさ。幹事さんに感謝です。

語り伝えられる「平重衡」

塩沢 久仙

美味しい昼食を終え、「ぼたもち石」を過ぎて、しばらくいくと、大きな岩窟の格子戸の中に阿弥陀如来を祀った「中将さん」がありました。ここは『平家物語』巻十でおなじみの平重衡が南都衆から逃れるための隠れ家で、この先の小鷲頭山頂付近には「終焉切腹場」がありここで最期を迎えたとの説明がありました。したが、史実では、千八百八十五(元暦二)年重衡は京都の木津川で斬首されています。重衡を捉えた源頼朝は捕虜である身にもかかわらず、重衡の潔さと人間性に感銘を受け丁重にもてなしたといわれています。この「中将さん」は、重衡

の人間性が地元の人々の心を打ち、伝説として語り継がれようとしているのでしょうか？地元の人々の重衡にたいする好意が伝わってきます。

中村 知里

初めての伊豆。芦安をまだ暗いうちから出発し、やってきた沼津アルプス。急な登山道を登りきると、駿河湾の滑らかな曲線の海岸風景が広がり、久しぶりに見る海に感動しました。この日は沼津では珍しく雪が降ったとのことでしたが、暖かく湿度がある空気、照葉樹が広がる森に、富士山を越えただけで山梨とは気が全く違うのだということに気づき、驚きました。お昼に用意していただいた豚汁が温かくおいしかったこと。山で出会った若者たちに「南アルプスにおいて。」と皆さんが声をかける姿を見て、自分たちの山、南アルプスを誇りに思える気持ちに心も温かくなりました。



富士山をバックに、達磨山山頂にて

沼津アルプス鷲頭山の中将宮

平成二十四年(二〇一二年)初春

伊豆半島の付け根に、沼津市から駿河湾に沿って延びる山並みがある。「沼津アルプス」と呼ばれ、海岸線に近いが急峻でアップダウンも多く初春に歩くのが最適との触れ込みに誘われ、今回の芦安ファンクラブ研修登山となりました。

平成二十四年一月二十九日(日)は天候に恵まれた中、富士山とその裾野遠くで南北に連なる遙かな南アルプスを眺め、眼下に駿河湾を望みながら徳倉山、鷲頭山を越え、多比口峠から大平山に行つて返すという一日に七キロメートルを超える縦走登山を楽しみ数多くを学びました。その最たるものは、志下坂峠から小鷲頭山への急登を巻いて登る中腹に中将岩と石仏があり、これを地元で

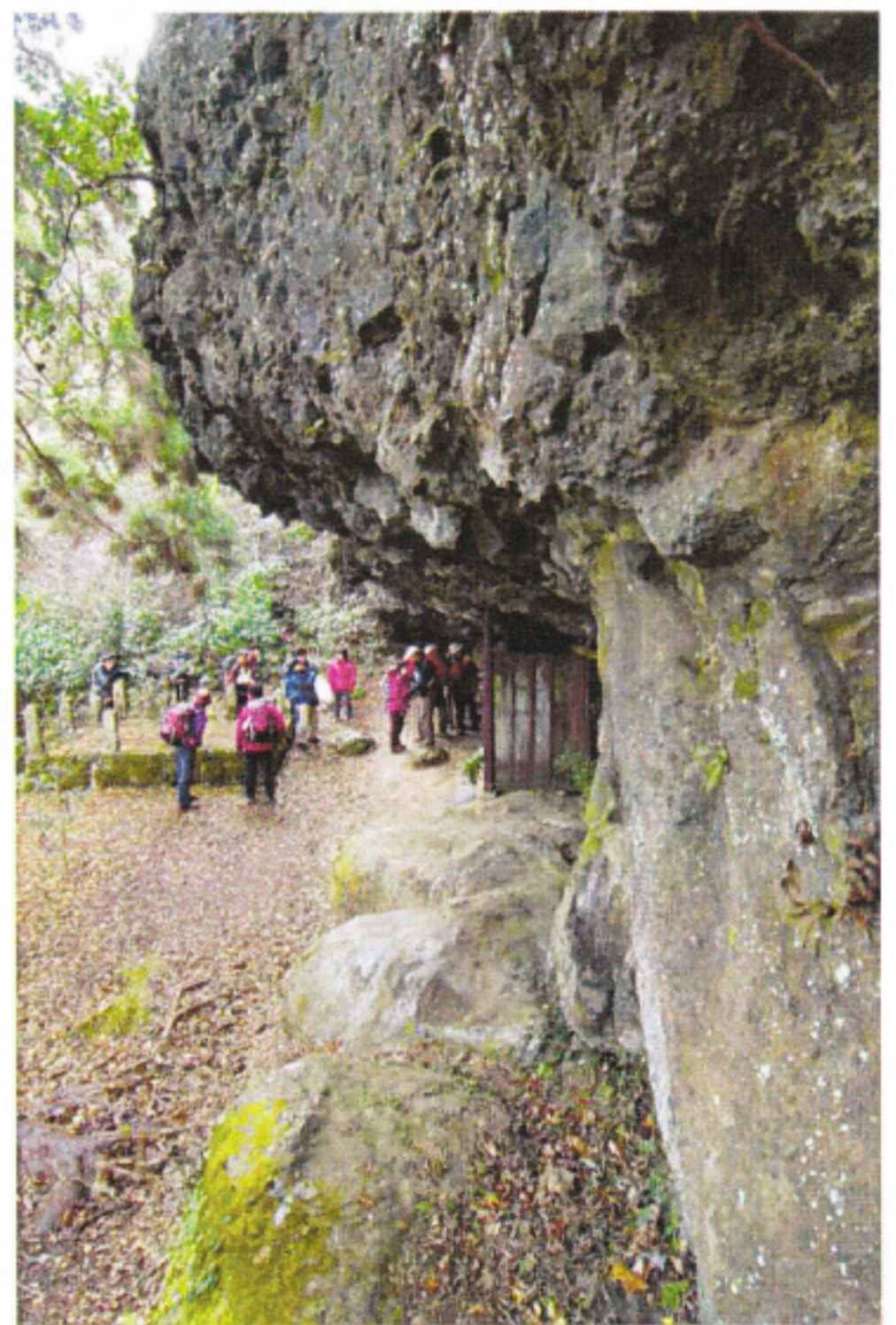


は「中将宮」「中将さん」と呼んで、あの平重衡をあがめ慰霊していました。

案内板によると

『平重衡は平清盛の五男で一ノ谷の合戦で敗れ、追っ手を逃れて静浦の浜にたどり着き鷲頭山の洞窟に隠れ住んだが、やがて追討ちに合い、我が命これまでと、大岩の上で切腹して果てた。後に村人たちが中将の霊を慰めるために洞窟に石像を彫り祀った。』

と説明書きされていましたが、古典平家物語では三位中将平重衡は南都の東大寺、興福寺を焼き討ちした総大将として鎌倉に護送され源頼朝の詮議を受けた後に再度都に送り返される折に奈良への途中の木津川で斬首となっているので、これも日本各地に伝わっている落人伝説の一つであるかなと思ってみたりもした。そういえば中将は生け捕りされる折りに自害の道もある中で、源平合戦の将として栄華を誇った平家の行く末を見届けるという意味もあり生を選んだことから、頼朝の詮議に対しては毅然とした態度で対面し頼朝からの懐柔にも屈しなかった。と平家物語に記述が残っています。



中将さんが隠れ住んだ洞窟

のロマンスがあったものの、その策には乗らなかつた。と古典で伝えていることから、あながち伝説ばかりと言いつてもいいところもある。

ふり返って富士山とその裾野遠くに雪白く南北に延びている南アルプスを眺めると、富士山は剛の者に見え、南アルプスは煌びやかな白銀をまとって遥かなる優美な山容の連山となっていました。これこそが平家物語の海道下りの一節で「北に遠ざかり雪白き山あり問へば甲斐の白峰といふその時三位中将落つる涙をおさえてかふぞ思い続け給ふ『惜しからむ命なれぞもけふまでぞつれなき甲斐の白峰をも見つ』」と詠んでいる奥深い語りの名場面ではないかと自分勝手に解釈し、南アルプスの典麗で優美な山容と歴史観を世界に発信している、芦安ファンクラブの研修にふさわしい価値ある縦走登山であったと感じました。

今回沼津アルプスを縦走し、その山海、川の地形から私なりに考えを広げると、頼朝が配流となった蛭ヶ小島というのは、この連山を巻いて駿河湾に流れ込む狩野川の中央部(中腹)に位置していることから、今のなお平家の誇りをもつて源氏を見つめているのかとも感じました。又、鎌倉で詮議を受けた後には、伊豆国の住人狩野宗茂にその身柄を預けられ滞在中に頼朝から懐柔策として送り込まれた千手前と



講義をする塩沢氏と渡辺氏



村人たちが祀った石仏

新入会員紹介

よろしくお願いします。

中村知里

昨年十月に北海道・知床から芦安に引っ越してきました。

知床では自然解説員や環境省のアクテ
イブレンジャーとして、国立公園の巡視
や普及活動を行っていました。知床半島
の背骨には日本百名山の羅臼岳を含む
知床連山があり、年間約八千人の登山者
が訪れます。ヒグマが高密度で生息する
ため、山の上でもヒグマとの遭遇の可能
性が高く、ヒグマに会わない為に音を出
して歩くなど常に緊張感を持たなければ
なりません。

アクテイブレンジャーの仕事では、登
山口に設置してある掲示板やインター
ネットで最新の登山道の情報やヒグマ
情報を掲示し、登山者が安全に登山でき
るように努めました。また、知床連山に
は山小屋が無いのでテント泊が必須で
す。キャンプ地ではヒグマとの事故を起
こさないために、食料をテントから離し
て保管するフードロッカーという食料
保管庫が設置してあります。フードロッ
カーはステンレス製でヒグマが開けら
れない仕組みになっています。テント内
やその周辺に食べ物のにおいがあると、
ヒグマを誘引してしまい大変危険なた
め、テントと調理場、食料の保管場所の
三箇所を離すのが知床でのルール。登山
道の巡視の際には、フードロッカーが

ちゃんと使えるか点検をしたり、不具合が
あった場合は修理を行いました。

最もつらかったのは、トイレ紙の回収
作業でした。登山道にトイレが設置され
ておらず、携帯トイレの使用も浸透して
いなかったため、登山道脇に用を足す人
も多く糞便やトイレ紙が散乱してしま
うのです。狭い登山道でトイレ場が集中
してしまうと悪臭や踏み分け道などの
問題が起こってしまいます。「せめて使
用後の紙だけでも持って帰ってくれれ
ば・・・」。高山植物の生える場所での
糞便の跡は心の痛むものでした。少しの
配慮で変わることも多いはず。今後マナ
ーの普及で知床連山の自然が守られる
ことを期待しています。

南アルプスでは山小屋を利用する登
山形態が一般的で、山小屋がほとんどな
い北海道の山しか知らない私にとって
は不思議な感覚でした。しかし、趣のあ
る山小屋で美味しい食事を味わい、山小
屋のご主人と語らうこともひとつの山
の楽しみ方なのだと感じています。南ア
ルプスの山では糞尿や登山道の荒廃の
問題が少ないとのこと。山小屋の方々が
管理していることが安全、快適に利用す
ることにつながっているのでしょう。
堂々とそびえる南アルプスの山々、そ
の入口である芦安での暮らし。かつてど
のような生活が行われていたのか、歴史
や郷土料理などについても興味がありま
す。芦安で見かけたときは気軽に声をか
けていただけると嬉しいです。どうぞよ

ろしくおねがいします。



齋藤 美樹

三年前に職場の人達に誘われ谷川岳
に登り、山頂に立ちました。

高校の時に合宿で大菩薩嶺に登った
時には、何も感じなかった私でしたが、
なぜか感動と達成感で山の魅力にハマ
ッてしまい、それから赤城山、北八ヶ岳、
日向山と毎週登るほど、夢中になってし
まいました。

山に登る事が楽しくて、日常生活から
離れ自然の中で過ごす一時が、私のスト
レス解消の場となり、今日に至るまで五
十ヶ所程登りました。

今後は、大好きな山と自然に感謝を込
めて、芦安ファンクラブの会員となり、
ボランティア活動にも参加、協力しなが
ら、山登りを楽しんでいきたいと思いま
す。

こんな私ですが、宜しくお願ひします。

齋藤 奈緒美

この度、芦安ファンクラブの会員とさ
せて頂きました、齋藤奈緒美です。
渡邊典美指導員の厳しい？教えの下、
茅ヶ岳や節刀ヶ岳、櫛形山の鹿柵作りや
大柳川溪谷ツアーガイドなど経験させ
て頂きました。又、個人的にはファンク
ラブが主催する鳳凰三山へ参加したり、
低い山ですが休みを合わせて主人と二
人で登山を楽しんでいます。

経験も少なく初心者ですが、芦安の地
域活性化と南アルプスの自然保護に微
力ではありますが、ファンクラブの皆様
にご指導を頂きながらお手伝いさせて
頂きたいと思ひますので、宜しくお願ひ
致します。



今回は写真を載せませんが、若いやる
気満々のスタッフです。ぜひ会いに来て
ください。

平成24年度 登山教室のご案内



**南アルプス芦安ファンクラブの登山教室は
四季の高山の旬をお届けします。**

南アルプスのふところに暮らしている私たちだからこそ、
山のいちばんいいときをお届けすることができるのです。

コース一覧

回数	開催日/集合時間	目的地 / コース説明	集合場所/登山口	難易度
	参加費		宿泊	特殊な装備
第29回	6月9日(土)10日(日) 集合 午後12時30分	しゃくなげで彩る百名山へ登る ..魔子の山 瑞牆山..	瑞牆山荘バス停 瑞牆山	中級者向き
	19,000円	1日目 魔子の山 2日目 不動滝→瑞牆山→瑞牆山荘	瑞牆山荘	
観察会	6月30日(土) 7月1日(日) 集合 午前11時30分	氷河期の忘れ物を訪ねて ..開山祭とキタダケソウ観察会..	野呂川広河原イ ソフォーメーションセンター/ 広河原	上級者向き 大榎沢雪渓の登下 降あり。要雪上歩行 経験
	12,000円	キタダケソウ繁殖地(北岳南東斜面) ※北岳山頂には行きません	白根御池小屋	8本爪以上アイゼ ン・ピッケル
第30回	7月18日(水)19日(木) 集合 午前5時00分	百花繚乱 お花畑にご案内します ..北岳..	芦安山岳館/広 河原	中級者向き 体力必要 標高 1,700mの高度差
	19,000円	北岳 大榎沢右俣コース	北岳肩の小屋	
第31回	10月6日(土)7日(日) 集合 午後1時00分	国民文化祭・やまなし2013「富士の国や まなし国文祭」リハーサル大会	芦安山岳館/北 沢峠	中級者向き
	19,000円	Aコース 栗沢山 Bコース 仙丈ヶ岳	大平山荘	

※参加費は、宿泊費・2日目昼食代・保険料・乗合バス代金を含んでいます。初日の昼食は、各自でご用意ください。

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

「NPO 芦安ファンクラブ」(代表 花岡利幸)は、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。

登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学んでいます。

参加者は一人でもグループでも受け付けています。お申込みをお待ちしています。

申し込み・問い合わせ

■申し込み・問い合わせ先

◆電話かメールでお問合せください。

◆芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地

◆Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162

◆<http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/>

■申込方法 所定の申込用紙にご記入の上、FAX又はメールでお申込ください。トラブル回避のため電話での申込は受け付けません。

◆申込用紙 ワード形式 PDF形式

■前泊を希望される方は、ご相談ください。